

クライオ電子顕微鏡の開発

日時

11月9日(木)
12:20~12:55

場所

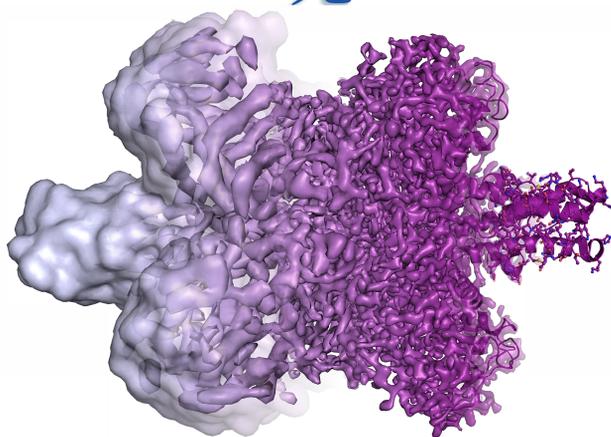
サイエンス・ラーニングcommons
(岡本キャンパス北校舎7号館1階)

解説

内藤 宗幸 氏
(理工学部機能分子化学科准教授)

渡辺 洋平 氏
(理工学部生物学科教授)

Resolution
before 2013



Resolution
at present

©Martin Högbom/The Royal Swedish Academy of Sciences

サイエンス・ラーニングcommons (SLC) では定期的にランチョンセミナーを開催して、甲南大学の学生や教職員のみなさんに、最新の科学研究をわかりやすく解説します。今回は、機能分子化学科の内藤先生と生物学科の渡辺先生による今年のノーベル化学賞の解説です。今年のノーベル化学賞は、溶液中の生体分子の構造を高分解能で決定できるクライオ電子顕微鏡を開発したJacques Dubochet、Joachim Frank、Richard Hendersonの3氏に贈られます。受賞の背景や、創薬などさまざまな分野への応用にも触れながら、受賞内容を紹介します。文系学部の学生や教職員の皆さまも、この機会にぜひSLCにお越しください。一般の方のご参加も歓迎です。多数のご来聴をお待ちしています。

※ 当日はお弁当の販売もあります。ランチをしながら最新の科学の話題をお楽しみください。

世話人：日下部 岳広 (理工学部生物学科) 問い合わせ先：理工学部・知能情報学部事務室 (内線6401)

主催：甲南大学理工学部 共催：『ビッグヒストリーを基軸とした文理融合型学際教育プログラムの開発』プロジェクト